

講義名	旅館事業経営論				授業形態	
担当教員	伊賀 尚武	開講期・曜日・時限		後期 月曜日 3 時限		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生	ナンバリング・コード
主題と概要						
近年、日本の伝統的宿泊施設である旅館は西洋型宿泊施設のホテルに多くの活躍の場を奪われている。これは現代の旅行者が求めるサービスと旅館が提供するサービスとの間にギャップが生じてきているからだと思われる。しかしながらこのような状況にあっても、旅館の中には創業以来200年以上もの長きに渡り営業を続ける“老舗”と呼ばれる宿泊施設が存在することも事実である。本科目では、それらの老舗旅館が明治維新や第二次世界大戦の荒波を乗り越え、現在もなお存在感を放ち続けることができる理由を探ることにより、旅館経営のあるべき姿を学習するとともに、伝統文化の継承者である旅館の未来について共に考えていきたい。						
到達目標						
）旅館業の基本知識が身につく。						
）サービスマネジメントの基礎知識が身につく。						
）老舗ビジネスの強みが理解できるようになる。						
）旅館の社会的な役割について理解できるようになる。						
提出課題						
）講義の終わりにミニレポートを提出（250字以内）						
）学期末テスト						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
ミニレポートでの疑問点や重要事項は次の講義の中でシェアする。						
評価の基準						
）ミニレポート 40% （第2～13回 講義）						
）旅館事業の未来についてのレポート 20% （第14回 講義）						
）学期末テスト 40%						
履修にあたっての注意・助言他						
授業中にできるだけ対話を取り入れたいと思います。こちらから挙手の依頼や問いかけをすることがありますので、その時は積極的に関わってください。						
教科書						
使用しない。						
参考図書						
なし。						

その他		
毎回 自作パワーポイントを教材として使用。		
授業計画		
1．ガイダンス 2．旅館の歴史（日本における伝統的宿泊施設の歴史） 3．旅館の事業形態（都市型旅館、温泉旅館） 4．旅館のオペレーション 5．旅館事業の課題 6．老舗旅館のマネジメント 7．老舗旅館のマネジメント 8．サービスマーケティング演習 9．サービスマーケティング演習 10．ホテルとの差別化 11．旅館のブランディング 12．温泉旅館の事例 13．都市型旅館の事例 14．旅館事業の未来 15．まとめ		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
予習： 毎回数回授業の課題を出すので事前に調べておく（120分） 復習： 受講した内容について復習を行う。（120分）		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
）到達目標を達成することでDPに貢献できる。 ）本授業を受講することにより、実社会での新しい旅館のかたちをイメージし創造することができる。 ）応用力を養うことにより他業界での長期的経営（永續経営）の実践に貢献できるようになる。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
）講義の中で、当方からの問いに対し意見やアイデアをレスポンスする機会を設ける。 ）授業内で提示する課題についての回答に ICTを使用することがある。		
実務経験の有無及び活用		
実務経験あり、外資系ホテルで営業とマーケティングを担当。その経験を活かし「魅力的な宿泊施設づくり」について皆さんと共に研究していきたい。 また、本「旅館事業事業経営論」の中で老舗研究（伝統の一貫性と革新による永續経営）についての解説も行う。		
備考		
基本的に講義テーマに関連する書籍や資料の持ち込みは自由とする。		